

資料編



- ★資料編 1 ・ 目次
 - ・ 資料編作成にあたって
 - ・ 保健学習と保健指導で子どもが変わる
 - ・ 「健康教育プラン」とは
 - ・ 授業づくりのポイント
 - ・ 家庭との連携のポイント
- ★資料編 2 ・ 第 4 学年「健康教育プラン」
- ★資料編 3 ・ 保健指導 1（ホップ）「わたしたちの誕生」実践例
 - ・ 「わたしたちの誕生」指導案
 - ・ 「わたしたちの誕生」ワークシート
 - ・ 通信
- ★資料編 4 ・ 保健学習（ステップ）「育ちゆく体とわたし」実践例
 - ・ 「育ちゆく体とわたし」指導案
 - ・ 「育ちゆく体とわたし」ワークシート
 - ・ 通信
 - ・ 資料「ミニ絵本『大人へのパスポート』」
- ★資料編 5 ・ 保健指導 2（ジャンプ）「1/2 成人式」実践例
 - ・ 「1/2 成人式」指導案
 - ・ 「1/2 成人式」ワークシート
 - ・ 通信

いきいき



資料編作成にあたって



今次、改訂された学習指導要領の体育科（体育領域）では小学校3・4学年の保健学習が新たに加われました。各教科の時数が削減される中で保健学習が増えたことは健康教育の必要性や健康に関する課題解決の重要性が配慮されたものと思われます。

本研究では「保健学習」の前後に「保健指導1」「保健指導2」を行うステップアップ型の学習プランを「健康教育プラン」として作成しました。

「健康教育プラン」で学習を進める中、心も体も健康で元気な子をはぐくむために「担任と協力（T・T）して保健指導1（ポップ）保健学習（ステップ）保健指導2（ジャンプ）」と児童の学びをステップアップさせる」「養護教諭の専門性を生かす」「家庭との連携」を重点として授業づくりの工夫と授業実践に取り組んだものです。

授業づくりで工夫した点は次のとおりです。

- ①年間計画の作成の工夫
- ②学習方法の工夫
- ③指導体制の工夫
- ④学習指導案の工夫
- ⑤ワークシートの工夫
- ⑥教材の精選・作成工夫
- ⑦評価の工夫

暗中模索の実践でありましたが、保健学習と保健指導を関連させた総合単元的な「健康教育プラン」での実践は、子どもたちが自分の心と体を見つめ自己認識を深めることで意識や行動を変容させ、確かな学びの深まりや広がりがありました。また将来にむけての心と体の健康の大切さも認識することができ、心と体の健康づくりに取り組む元気な子どもをはぐくめることがわかりました。

置籍校の富岡市立黒岩小学校の先生方にはご理解とご協力をいただき、第4学年担任の神戸香奈江先生には大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。

本資料編は、これから保健学習や保健指導を取り組む場合の参考になれば、うれしく思います。ご意見やご指導をいただきたいと思っております。

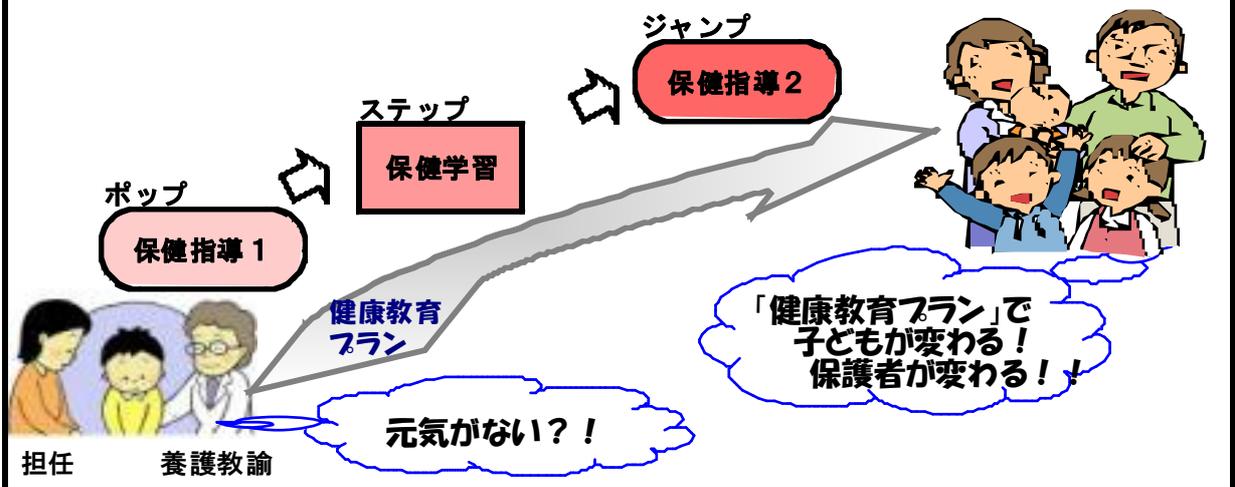
平成17年3月
群馬県総合教育センター
長期研修員 大谷由力里

保健学習と保健指導で子どもが変わる

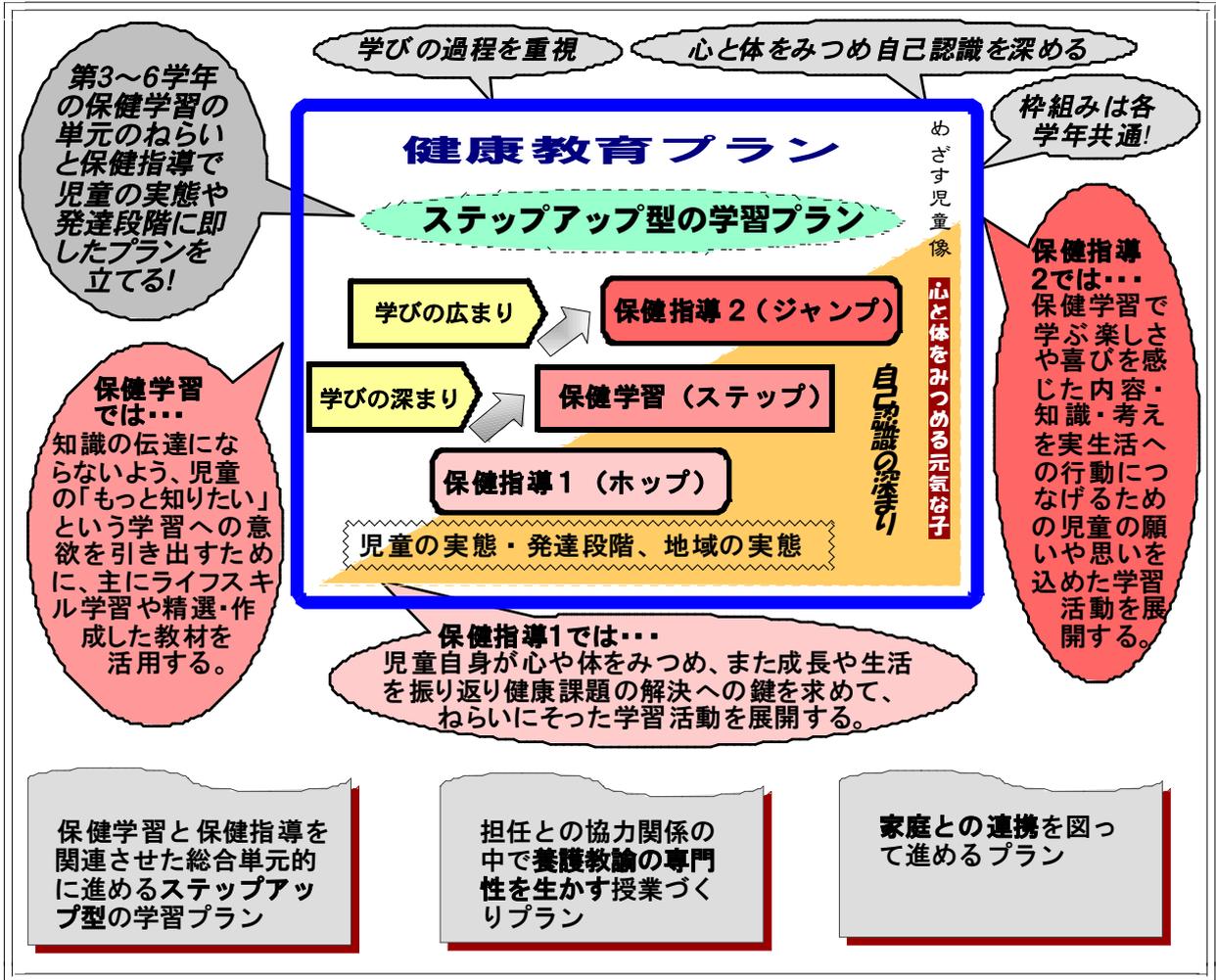


児童の健康課題から

担任と養護教諭が協力して「保健学習」と「保健指導」をする・・・



「健康教育プラン」とは



授業づくりのポイント



1 年間計画の作成を工夫すること (ホップ+ステップ+ジャンプの実践例)

	保健指導1 (ホップ)			保健学習 (ステップ)			保健指導2 (ジャンプ)			保健指導1	保健学習 単元名	保健指導2
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第3学年			□ ◆ ●									
第4学年					□ ◆ ●							
第5学年				□ ◆ ●		□ ◆ ●						
第6学年						□ ◆ ●						

学習は一単元を集中して学習!

児童の実態から

実践にあたっては養護教諭と担任が協力しながら年間計画の中に位置づけて授業を行う。

6 教材の精選・作成を工夫する

※ホップ・ステップ・ジャンプ共通

教材の精選・作成の例		具体例	
ポイント1	児童が興味・関心を持って、「もっと知りたい」と学習に臨むことができる	健康クイズを行ったり、健康診断の結果・保健室のデータを使ったりした教材は自分の成長や生活、健康問題を振り返ったりすることができる。そして問題点だけでなく健康に関して努力している点など個のよさに気づき、児童の興味関心を高め、自分の健康について考えることさらに知りたい、調べたいという意欲や課題をつかむことができる。 (例:「のびのびグラフ」と紙テープ →)	
ポイント2	命あるものへの優しさ・思いやり・慈しみの気持ちが育つ	おなかの大きくなったお母さんの絵や大きくなっていく胎児の絵、へその緒を教材として使うことで優しさや思いやりの心を育てることができる。胎児の実物大の重さの砂袋や赤ちゃん人形の感触について体感することにより、自分の命を意識できる。そして家族から手紙を教材にすることにより、臨場感にあふれたものとなり、いきいきと思いを届くことのできる効果がある。(例:3kg・50cmの「赤ちゃん人形」 →)	
ポイント3	思春期における児童の感性や感情を大切にす	体の構造や機能、生理などについては口頭で説明するだけではなかなか理解させにくい。そこで絵や写真、紙芝居、具体物などを使って説明すれば理解が深まる。オリジナルの教材には親しみを感じ、全体の雰囲気や柔軟性を高め、児童の感性に優しく語りかける。(例:10才の子どもの「心の模型」 →)	
ポイント4	楽しくわかりやすく学習でき、科学的な認識力を高められる	心や体の健康の大切さを実感し、その構造の素晴らしさを感じさせるためには、見えない体のしくみを見せる必要がある。実物大の脳や臓器の手作り教材を使って、体の構造や体を守るしくみを再現することで科学的な認識を高める。 (例:「体の中の変化」 射撃と月経のしくみ →)	
ポイント5	温かみを感じ、さわったり、触れたり、聞いたりすることにより、イメージが膨らむ	赤ちゃん人形をだっこしたり、羊水に見立てたお湯にふれたり、胎内を想像する子宮袋に入ったり、心音や産声を聞いたり産声をとおったりするなどの横断体験をおし、児童の感覚からそのもののイメージが広がる。そして児童の発想を豊かにする。その教材のもつ温かきを実感し、心に染み入ることができ。(例:「ゲンちゃん人形」への健康メッセージ →)	
ポイント6	児童一人一人の悩みや疑問を正面から受け止められる	個別指導にも役立つ教材であることが重要である。手づくりの教材が、健康に関する正しい知識を得させ、将来において正しい選択ができる判断力を育てることができる。そこで、心に語りかける教材が「なるほど」「そうなのか」と実感させ、悩みや疑問を解決することにつながる。 (例:「男女当てっこクイズ」 →)	

7 評価の工夫をすること

※ホップ・ステップ・ジャンプ共通

○児童用：ワークシートに自己評価の欄を設ける。

○教師用：評価シートを作成する。(▼ 評価シートでの評価は評定の参考にする。)

学年	学期	1学期(0/10)				2学期(0/10)				3学期(0/10)				4学期(0/10)				総合	評定	出席率
		関心・意欲・態度	学習の習慣	知識・技能	思考・判断力															
1	前期																			
2	前期																			
3	前期																			
4	前期																			
5	前期																			
6	前期																			

評価のチェック項目をあらかじめ用意しておくことで評価しやすい。

小単元ごとにパソコンに入力しておくと、単元の評価をする際、集計しやすく評定が3段階で表われ、便利である。

誰でも使えるようにパソコンで入力するときの諸注意を記入。

評価 3: 十分満足している状態 2: おおむね満足している状態 1: 努力を要する状態 数字を入力するときに小数が省略され、その値によって評定
 評定 30点以上はA 20~29点はB 10点以下はC

V. 家庭と連携するポイント

※ホップ・ステップ・ジャンプ 共通



○児童が学んだことを実生活で生かせる（フィードバック）家庭との連携を図る

- ・家庭の理解と協力を得る（指導前後の「通知」や「通信」の発行）
- ・授業公開する（授業参観日の実施）

★事前通知

作成のポイント
家庭の協力を得るためにねらいや趣旨を書く。

作成のポイント
体のこと、プライバシー ふれることもあるので、指導にあたる配慮も記入。



作成のポイント
授業日を知らせることで家庭で話題となる。また、授業参観への促しになり、保護者の協力が得られる。

作成のポイント
することをわかりやすく明確に保護者をお願い書いておく。

★事後通信

作成のポイント
わかりやすいネーミングをつける。

作成のポイント
実践に関わる家庭へのお願いも書くと、より効果的である。



作成のポイント
写真を載せると授業をイメージしやすい。

作成のポイント
授業の中でのつぶやきや発言を載せる！